



Sponsor a Child

クリスチャンパートナーズ

通信第 98 号

-
- | | |
|---|-----------------------------------|
| ・発行日／2016年11月30日 | ・発行所／クリスチャンパートナーズ |
| ・事務局／〒422-8053 静岡市駿河区西中原
2-7-63-111 竹澤三佳子方 | ・Tel/Fax 054-283-1721 |
| ・郵便振替口座／00150-0-134994 | ・e-mail/sunflower818@hw.tnc.ne.jp |
| | ・http://www2.wbs.ne.jp/~c-p/ |
-

アフリカを訪ねて ～貧困との戦い～

理事長 木ノ内一雄

「申しわけありませんが、私はこれで帰らせていただきます。」会議の途中、一人の青年が立ち上がって言いました。六年前、米国P I代表ジョン・ルイス氏とガーナ、セネガル、ガンビアを訪問しましたが、その時のある夜の集会でのことでした。彼はその理由を話し始めました。「私には三人の子どもがいましたが、一人はマラリアで死にました。今、もう一人の子がマラリアになったのです。家で一緒にいてあげたいのです。」私たちは、「どうぞ、早く帰ってお子さんと一緒にいてあげてください」と言い、その子の回復を祈らずにはいられませんでした。

先進国ではほぼ撲滅されたこの病気が、アフリカ、特にサハラ以南では多く、乳幼児から五歳未満の子どもの死亡はほとんどがマラリアによるものです。感染した雌の蚊に刺されることにより発症しますが、ほとんどの村には医師も薬もなく、昔からの民間療法や祈祷師、魔術師に頼っているようです。そのため、折角子どもが与えられても、ある年齢に達するまでは愛情を注ぐことはできないとのことでした。亡くなった時の悲しみに耐えられないからです。そして、あらかじめ病気で死ぬことを考えて、多くの子どもを産むと言います。サハラ以南はアフリカでも特に貧しい地域ですが、マラリアのせいで貧しいのか、貧しいからマラリアが多いのかが、問題になるようです。いずれにしてもその解決は難しいのが現状です。

そのような中であって、日本のアジア学院で学んだガーナのバンマリグ師は、少しでも村を豊かにしようと様々なプロジェクトでがんばっていました。村の長老たちも皆クリスチャンで、教会を中心に彼を助けていました。特に教育と医療への支援が必要だと思いました。多くの村が直面する圧倒的な貧しさの前に、私たちにいったい何ができるのかを考えさせられました。村々を訪ねるごとに集まってくる子どもたちの輝いた眼と笑顔は忘れられません。



「ヤマ子どもの家」の子どもたち

ガーナプロジェクト支援について

理事 木ノ内和美

《支援に至る経緯》

ガーナ北部出身の牧師、アモス・バンマリグ師は 2004 年 4 月から 9 ヶ月間、アジア学院（栃木県）の研修生として農業指導の訓練を受けられた。その間、川越教会に何度か礼拝出席され、親交を持つ。帰国後宣教活動及び地域の人々の生活向上のためのプロジェクトを本格的に立ち上げる。その後、川越教会で始めた支援を、米国 PI の助言により必要な手続きを経て、2006 年からクリスチャンパートナーズを通して行うことにする。米国のアフリカ担当者が現地を訪問し、アモス師の人柄、プロジェクトについての調査報告を受け、2008 年に送金を開始した。（災害見舞金を含み 266,000 円）（通信 75・76 号参照）送金の使途については 2008 年度の活動報告に記載されている。（通信 81 号参照）

《現地視察》

2011 年 9 月、理事長が米国 PI 代表、ジョン・ルイス氏夫妻に同行してガーナ、ガンビア、セネガルの三ヶ国を訪問。ガーナでアモス師やご家族、チームに歓迎され、プロジェクトを見学。帰国後、映像などでの報告を受け、理事会で本格的に支援を進めることを検討。（通信 85）

昨 2015 年度の送金（10 万円）を受けて、アモス師から活動報告が送られてきた。以下は岩崎俊夫顧問による翻訳文の要約。

2015 年度年次報告 アモス・バンマリグ

農業指導・農場伝道活動（DFP）

伝道に携わる私たちはいつも聖書のみ言葉から力を頂いています。神に与えられた業を成し遂げることは、容易なことではありません。その達成に必要な思いやりの心、忍耐心、ゆるぎない心、勇気、欠けることのない愛、正直さ、真理を与えてくださった神に感謝いたします。

私たちは、伝道者としてこの一年を通じて伝道で働く者のための研修会を二回と、既婚男女のための研修会と青少年の研修会をそれぞれ一回開くことができました。今のところ、開拓伝道者たちはすべて北部地域にいます。

私たちが二つの教会（会員数計 40）を、一つはキンカンディナに、もう一つはブギンガに、立ち上げることができたことを全能の神に感謝します。2015 年を通じて 275 人の方々を信仰に導くことができました。これは神の恵みによるものです。

既婚男女と青少年に助言を与えるための諸プログラムもまた大きな力を発揮しました。すべてのスタッフは私自身や理事会も含めて、伝道の将来像を見据えて懸命に励みました。同様に私たちはこの報告を通じて、み業を成し遂げるために祈りと財政的な援助を通じて支援して下さったすばらしい人々に感謝をささげたいと思います。

神があなた方を豊かに恵まれますように。

〔参考聖書箇所：ヤコブの手紙 1 章 1～5 節〕



（アモス・バンマリグ師）



農業実践プロジェクト



指導者養成プログラム

キリスト教農村奉仕伝道活動

この活動は農業指導・農場伝道活動の一環として、伝道者たちに対応する任務を担っています。この写真は、自転車でミシオでの礼拝に向かうウィリアム・ティア・アズマ牧師です。彼の自転車は大変古く、彼自身も五十歳を超えました。彼には妻と五人の子どもがいて、視覚障害があり、時には字を読むことも困難ですが、一字も読めなくなるまで奉仕を続けると言っています。実際に彼は休むことなく伝道に励んできました。多くの伝道者たちは任務を果たすための交通手段に問題を抱えています。しかし彼らはそれぞれに神の召しを受けているがゆえに、御業のために働き続けているのです。これら聖職者が御業に奉仕するために移動手段への支援を願っています。



自転車に乗るアズマ牧師

教会建設

教会建設を目指す伝道者たちは、その困難な時にさえ成果を上げることができました。伝道に向かう時に雨が道を阻むようなことも、自転車のタイヤがパンクするようなことも、その他さまざまな困難がありましたが、それらすべてを超えて神に栄光がささげられました。

私と何人かのスタッフは D. ウエンヤラ理事長とともに、教会建設に尽くしている仲間が実際に奉仕している現場ラングビンシで、S. アズマ牧師が 4 月 7～9 日に行った伝道会に参加しました。それはすばらしい集会でした。多くの群集が神の言葉を聴きに集まり、人々の心に灯がともされ、キリストを信じる者となりました。

もうひとつ、11 月 11～13 日にヤマで行われた伝道会の例があります。キリストに会うため大勢の人々がやって来たのは圧巻でした。人々の生活は一変しました。そのほか、私たちは生徒たちに会うため、いくつもの学校を訪問しています。

統計からみた伝道報告

- *新規教会建設 2ヶ所
- *小規模集会形成 5グループ
- *訓練した教職者 5名 教会役員 45名
- *学校で訓練した青少年 47名
- *訓練した既婚男女 185名
- *キリストへの信仰を告白した人 553名

学校・児童養護施設について

児童養護施設「ヤマ子どもの家」は順調に運営されており、子どもたちは幸せに暮らしています。養護施設の運営と教育の必要上、施設付属の学校が開設されました。「ヤマ子どもの家」には24人が暮らしており、収容能力の関係で外部から30人の児童が通ってきます。付属学校には3人の教師がおり、生徒数は保育児童から小学6年生まで全部で284人です。学校は順調に運営され、教育もはかどっています。子どもたちは皆様の支援に心から感謝しています。

山羊飼育プロジェクト

これは福音伝道のきわめて有効な手段であり、また人々の生活向上に資しています。今回は13頭の山羊を購入し、生活改善のために4人の女性と2人の男性に与えられました。この引渡しは公開の場で行われ、多くの人が立ち会いました。



(山羊とアンナ・アチリ夫人一家の写真)

《山羊プロジェクトの成功例》

アンナ・アチリ夫人は娘二人息子一人の三人の子どもを持つ寡婦で、苦しい生活をしていましたが、神と共に歩み、新しい道が開かれました。彼女に二匹の山羊が与えられたことから、生活を改善することができたのです。娘の一人を山羊から得た収入でヤガバ高校に進学させることができました。

これはひとつの例ですが、貧しく困窮している人々を援助するためのこのプロジェクトに更なる援助が必要であることをも示しています。

左の写真は彼女と子どもたちです。姉は学校に行っており、ここにいるのは妹の方です。一匹の山羊は三匹の子を産みました。それはすばらしい神の恵みでした。

ガンバガ・ウィッチキャンプ（高齢女性収容施設）

この施設は私たちの思いの中で大事なもので、私たちは時折訪れ、収容されている人々のために祈り、また面倒を見ています。ここにいる年老いた女性たちが病に悩まされ、食料、薬、衣服など暮らしに必要な物の欠乏に苦しんでいるのを見るのは大変つらいことです。私たち指導部は、こうした極貧の男女の生活を助けるために、援助金による支援か現物での支援を呼びかけることを検討しています。

祈りのお願いとその項目

1. 恵みをもたらしてくださった全能の神への感謝
2. 私たちと現在連携している方々、今後支援する志を持っている方々への神の祝福
3. 宣教師やスタッフとその家族の健康への祈願
4. 救いを得た人々のために、また更に多くの人々が救われるために

5. 恩寵を人々にもたらす宣教者と支援者のために
6. 施設長と事務所スタッフが御心にかなう業をなすことができるように
7. 近く行われようとしているガーナの選挙が終始暴力沙汰もなく平和裏に行われるように

作業を前進させるために克服すべき目標

1. 輸送手段は宣教のための重要な問題である。対象村落への距離は遠くそれらの地に赴くのは宣教者にとって容易ではない。
2. 孤児たちのために、その収容施設と食料・衣料の支給が必要である。
3. 訓練計画や山羊プロジェクトを推進するための財政的な支援が必要である。

支援へのお願い

今年度の支援として、9月に15万円を送金しました。現在ガーナプロジェクトを支援してくださっている方は10名です。SAC支援のように毎月定額送金ではなく、年間を通してお気持ちの額を随時お送りくださることにより、アモス師のプロジェクトを支えることとなります。

便利な生活に浸っている私たちが想像できないような、電気もガスも水道もない環境の中で、ひたすら宣教の業に取り組んでいるアモス師の活動を、一人でも多くの方に支えていただきたいと、心から願っております。

木ノ内和美

~~~~~  
 高橋めぐみ宣教師より、クリスチャン パートナーズが  
 給与を支援している教師テレシアさんの言葉が到着しました。  
 ~~~~~

西カリマンタン州シンタン県私立スガイダウン小学校教員、テレシアです。

主のみ名を賛美します。ヤシ油とゴムの価格が下落して不安定な物価の中で、この小学校の教員でいられることに感謝しています。私には男女二人の子どもがいて恵まれています。けれどぜんそくの持病があるので、病院に行くことも必要ですが、教員としての仕事を続けています。

私は生徒たちを愛していますし、教師という仕事が好きで続けることができます。聖書にあるように、子どもは天の国の宝で、インドネシアの将来を担う者なのです。私たち教師には、子どもたちを幼い頃からよく育て、正しい道に導く責任があります。それによって、将来が平和になるでしょう。

この仕事をするため、神様が私たち教師を選んでくださったのです。私たちの報酬は最低基準以下ですが、子どもたちへの愛と信仰に支えられて仕事を続けています。保護者たちがもっと教育に理解を持って、子どもたちの将来を考えてくれるように願います。

私を支援してくださっている方々のご厚意に感謝し、皆様の上に、主イエスの恵みが豊かにありますように祈ります。

テレシアより



(クリスチャン パートナーズでは年額 42,000 円を支援しています)

